さまなり、一人の女たちて、板戸ひきあくれは、よひのほとよりさえ渡りしもうべ、雪しろうふり積れるなりけり。其女、此内にきさきの宮はおはさぬかなとかしこしとも思はぬげに言ひ出てぬ。やかてこうろ峯のとまはに打いてたる、いみしくて、あはれかくまて今の世の女たちの心にかなひてもてはやさるゝを、かのおもとかたましひ、若しきゝたらんには、いかはかりなけくらん、いかはかりうらひらん、けにおもとは、才もなく文字たによめぬ女にはあらさりけるものをとかたはらいたくて

母と幼な子

つねを

すひつもいつか　灰がちに
さひさかこてる　幼な子の

「春着ぬふて」と　何にげなく
優しき言ばに　胸さわぎ
「父がいまさば　いまさば」と
諭せる母を　ながめては
「ちゝはいづこに　ゐ給ふ」と
問ふ子のかしら　掻い撫でゝ
「さればよ汝が　父うへは
かへらぬ旅に　三とせまへ」
とのみにまたも　うなだれて
あはれ涙に　母と幼な子

幼稚園案内

（第三卷第十一號の續）

東基吉

保育の方便の續き

保育の方便は、遊戯、唱歌、談話、手技の四項目

に分れて居る。然し前號でも述べた樣に、幼稚園といふ所は、結局遊戯を以て教育する所だといふ事を忘れてはならぬ、子供の遊ぶ遊戯をどう利用すれば、子供のどの教育にどういふ功能を得ることが出來るか、其遊戯をどういふ風に指導すれば子供にどんな爲めになるのであらうかといふ事を考へつゝ、子供を遊ばせて行くのである。だからつまり幼稚園の保姆は、子供を遊ばせる役だから何人にでも出來る。然し、眞實に、今いつた樣にして遊ばせる事は、中々考も入るし骨も折れるし、左樣何人にも出來るといふ譯には行かない。大體左樣いふ精神で以て、唱歌も、談話も、手技もやつて行く。だからして、之等の方便もつまりは、遊戯の手段だといつてよい、子供が竹馬に乘つたり、毬を投げたりして遊ぶと全じ樣に、歌を唱つて遊ぶ、談話を聞いて遊ぶ、手技をして遊ぶといふ風にやらせる、此精神を以てしないと、兎角、いろんな六ケ敷い事になり易い、歌でも大人の讃美歌をすぐもつて來て教へようとしたり、談話でも、やれ修身上の訓誡だの庶物の智識だのと、丸で學校で理科や修身を授ける心得でやりたがつたり、手技にしても、左ながら小學校の手工科の樣な心得でやらせようとする。凡べて、こういふやり方は、子供に課するに勤勞を以てするものであつて、フロエベル氏の意見からいつても、餘程遠くなつて居るといはねばならぬ、小學校の教授は勤勞である、幼稚園の保育はどこまでも遊戯にあるのだ。

時間のこと

我國の規定によると、保育時間は、一日五時間以

内といふことになつて居る。だから、三時間でもよければ、又は二時間でも乃至は一時間やつてもよいのである。然し、まさか、一時間や二時間丈けやるといふ譯には行かないが、大低は五時間とか四時間半とかやつて居る。尤も之は普通の幼稚園のことに付いていふので、彼の勞働者の子供などを預る所の幼兒依託所などに在りては、何れも五時間以上預つてやらねば、其甲斐が少からうと思はれる、次に幼稚園に於ける時間割のことだが、先づ普通は、遊戯、唱歌、談話、手技の四項目によつて、時間割を定めて、通例一項目に凡そ二十分か又は三十分の時間を宛てる。例令ば、朝九時から九時二十分までは遊戯、其次の二十分は談話、次の二十分は又遊戯、次に唱歌といふ樣な風だ。これは適當だらうと思ふ。同一のことを子供に、三十分以上も續けてやらせるのは無理なことで、此時分の子供の心的作用は、其變轉が甚しく注意が始終彼から此へと飛ぶものであるから先づ十五分二十分といふのが至當だと考へる、夫から幼稚園では、小學校の樣に、十分間の休憩時間といふものは置かぬ、否、若し置くとしても、夫は矢張り保育時間だ、休憩時間だからといつて子供等全士はりの放して置くといふことは幼稚園では出來ない。

が、然し、眞實我輩の考ふる所をいつて見ると、右の樣に、一週間とか一月とかキチンと時間割をきめて置いて、保育にかゝるといふは面白くない、月曜の最初の時間は何、次の時間は何、火曜の最初の時間は何、其次の時間は何と定めて置くと、それは保姆の爲めには少からず便利であらう

然し、子供の活動の狀態といふものは、一週間、一月と全じ樣には留まらない、第一に其日の天氣の具合、次に身體の狀況等で以て、違つて來るは當然といはねばならぬ。だから、或日には、遊戯を三十分以上もして居たい事もあらう、或日には、談話を長く聞いて居て、唱歌などは餘り唱ひたくないといふ事もあらう。否な、日に由りてのみならず、一日の中でも、あれをもそつと長く、これはもそつと少くしたいといふ樣な傾きがある。夫を、何でも乎んでも、時間割をきめて置いて、時間割にこうだから是非とも、こうしなければならぬといふ樣にやるのは、夫は子供の性質に適應しようといふやり振りとはいへない。そこで以て巧妙なる保育者は、よく子供の活動の具合を注意する、そして、其活動の傾向といふものを見て、之に適應して保育して行かうとする從つて、毎日毎週、同一の時間割を繰り返して居る機械的の仕事とは、餘程趣が違ふ。（つゞく）

幼稚園の遊戯（その二）

松村ひさ

（5）遊戯が理想の樣にいつて居る時にはどんな風であるか

といふ事に就て、此書には、子供に向て指導命令する事が少なく、保姆の言ふ口數も少なく、子供にとつては命ぜられて居るといふ感じが少ないのが良いのであると說いて居ります。

保姆の口數が多く指導命令が多ければ多いほど子供は器械的に動く樣になるので、多くを言ひ多く命じなければならぬ樣な遊戯は、何か子供に不適